



経済の枠組み

令和6年5月20日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

金融は、経済のライフラインであり、資本の所有は、資本主義の根幹である。経済は株式の所有において、その所有という現実における経済活動を与える。

これらは未来の予測を求めるとき、資本が世界のどの地域へ移動するのを見、その未来を予測することが可能なのである。

アメリカが自国のプレゼンスと維持を得るのは、世界の資本がアメリカへ流入するからである。

また今日のインフレと為替変動は、国家における富の過多において、新しい経済システムのもと再編されていることを理解できるものである。

グローバル化は、資本における新しい世界の所有形態の構築を有するものである。

デジタル経済への移行は、これら現実の拡大と維持なのである。

これらは富における世界の支配という現実への正しい理解なのである。

資本主義という欲望の原理は、これらを否定することがないのである。

これらは大衆と王の存在が世界に存在することの証明である。

これらヒエラルキーは全ての現実の公正であり、これを否定して現実を有することができないのである。

この絶対的な矛盾は、欲望と富における現実と支配への抵抗が不可能なのである。富はさらなる富を創出し、その豊かさは未来を創造するのである。

これらは現実への正しい考察であり、新しい未来への模索は、これら現実への疑問を与えるものである。